

令和6年9月10日  
(公財)日本海事広報協会

報道関係各位

## 豊橋市の小学生を対象に三河港と海運をテーマに授業を実施 ～川崎汽船(株)の船長がゲスト講師として授業～

(公財)日本海事広報協会と川崎汽船(株)は、2024年9月5日(木)に、豊橋市内全小学校の5年生約3,000名を対象に三河港や海運、船員をテーマとしたオンライン出前授業を実施しました。これは(公財)日本海事広報協会が海事団体と協力して展開している「小学校における副教材等による海事教育の推進」事業の一環で行われたものです。

両者は豊橋市において、例年共同で出前授業を実施し、海事教育の浸透をはかっており、昨年度に引き続きオンライン形式による船長の出前授業を実施しました。

この日の出前授業は、川崎汽船(株)の山田隆裕船長が講師として授業をおこないました。豊橋市教育会館より各教室へ授業が配信され、「船の種類」や「船員の仕事」、「三河港」についてなど、児童たちは「船」による海上輸送を通して世界各国とつながる三河港の姿や、そこで働く船員の仕事を学びました。

授業を受けた児童からは、「LNG船一隻でどの位の量を運ぶことができるのか」「海外で戦争が起こると貨物を運ぶのが遅くなるのか」「自動車専用船に沢山の自動車を積んでいるが、どんな仕組みで沈まないのか」などの質問が飛び交い、同社の影山龍生船長と金成旭一等航海士が夫々回答しました。

講師の山田船長は「児童にいかに海運について興味を持たせ、理解を深めてもらうために試行錯誤しました。三河港を身近に感じるとともに船員という職業に魅力を感じてくれたら有難いです。」と語ってくれました。

授業を受けた汐田小学校の柴田教諭は、「身近な三河港で輸出入が多く行われていることを知り、どんなものが多く運ばれているのか、何台の自動車が運ばれてくるのかなど、たくさんの疑問が出てきました。これから該当単元を学習していく意欲づけになり、今から授業が楽しみです。児童たちの素朴な疑問にも丁寧にお答えいただき、感謝いたします。」と感想を述べました。

当協会では、引き続き、豊橋市において、川崎汽船(株)をはじめとした海事関係者とともに、海事産業の見学会や出前授業等の海事教育を推進していきます。

【小学校における副教材等による海事教育の推進事業】 協力団体(50音順)  
(一社)日本港運協会、(公社)日本港湾協会、(一社)日本船主協会、  
(一社)日本倉庫協会、(一社)日本造船工業会、日本内航海運組合総連合会



オンライン出前授業をおこなう  
山田隆裕 船長（中央）

質問に回答する影山龍生 船長（右）と  
金成旭 一等航海士（左）

市内全校へ授業映像が配信されている様子



積極的に船長に質問をする児童